

令和8年度

「運営に関する計画」



小中一貫校大池学園  
大阪市立大池中学校

令和8年4月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

令和 3 年度からの生野区西部地域学校再編整備計画により、令和 4 年度に大阪市初の連携型小中一貫教育を推進する『小中一貫校大池学園』として統合された。義務教育 9 年間の教育課程の完成に努めつつ、合同研修会や研究授業、授業参観など教職員交流、および児童生徒の交流など、大池小学校との連携を推進しており、令和 7 年度に小中一貫校としてユネスコスクールの認定を受け、引き続き、多文化共生教育を柱とした人権教育の推進に努めているところである。

安全な学校の実現に向け、生徒への学校規則の遵守や規範意識向上にも取り組み、生徒アンケートにおける「命の大切さや社会のルールを守っている」で高い肯定的割合が継続されており、引き続き自尊感情や生命を大切にす心の醸成に努めていく。また、安心して学べる環境を提供するため、「いじめはいつ起こってもおかしくない」を前提に全教職員が早期発見に努め、生じた事案はいじめ対策委員会にて検討を行い早期解決が図れるよう組織的に取り組んでいる。

学力向上のため、家庭での学習習慣の定着に取り組み一定の効果がみられる。しかしながら、学力を数値として検証する場合は目標達成が難しく、学習習慣や学習意欲向上に努めつつ基礎学力の定着に工夫改善を要する。

総括的に取り組みを検証した場合、カリキュラムマネジメントの観点に沿った教育活動を継続し、教職員による相互授業参観の期間を設定するなど、指導方法を工夫する機会や教職員研修への参加により、「生きる力」をはぐくみながら「主体的・対話的で深い学び」につながる授業展開を心掛けていく。

体力向上において、体育大会や駅伝大会への取り組みなどによりスポーツへの関心を高めてきた。また、体力・運動能力の定着には、部活動や校外での運動経験の影響も大きく、生徒の基本的な生活習慣に注目が必要である。今後の部活動の在り方や目的を包括的に考えながら体力・運動能力の維持・向上を目指す必要がある。

教職員の働き方改革についても積極的に取り組み、ICT 機器の活用の進捗により教材作成や情報周知等での負担軽減が図られ、平日の勤務時間の超過は減少している。しかしながら、部活動における公式試合や、コンクールなどへの出場のため、土日休日等の一定時間が費やされ、教職員の職務への意欲との均衡が課題である。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を97%にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査における「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和11年度年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和11年度大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を50%以上にする。
- 令和11年度年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目において「全くしない」と答える生徒の割合を、10%以下にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 年度目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 人格形成の基礎を培うため、合唱コンクールや文化的活動を通じて感性や創造力、表現力を育む情操教育を推進する。
- 校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ユネスコスクールとして、国際理解を含めた人権尊重の精神をはぐくむ活動を設定するとともに、小中一貫校として学びの一貫性を確立する。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。(前年度79.7%)
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を40%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。
- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

## 3 本年度の自己評価結果の総括

--

## 大阪市立大池中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>年度目標【安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。</li> <li>○ 年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 年度目標アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切に、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</li> <li>○ 人格形成の基礎を培うため、合唱コンクールや文化的活動を通じて感性や創造力、表現力を育む情操教育を推進するとともに、国際理解を含めた人権尊重の精神をはぐくむ活動を設定する。</li> <li>○ 校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。</li> <li>○ ユネスコスクールとして、国際理解を含めた人権尊重の精神をはぐくむ活動を設定するとともに、小中一貫校として学びの一貫性を確立する。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>『いじめについて考える日』を効果的に活用し、各学年・各クラスで考える取り組みとともに、定期的ないじめアンケートを実施し、学校全体でいじめの未然防止・早期解決に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に、肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を 95%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>インターネット・SNSを通じた犯罪行為やネット依存に関する指導を工夫し、生活習慣を見直しつつ、健康に留意し生命を大切に考え、規範意識を高める取り組みを推進する。</p>	
<p>指標</p> <p>校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」に、肯定的に回答する割合を 90%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>連携型小中一貫校として、円滑な接続により安心して登校できる環境を作るため小学校との交流を促進する。</p>	
<p>指標</p> <p>児童生徒の交流などを実施し、年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>ユネスコスクールとして、多文化共生教育を柱とする人権尊重の精神をはぐくむ活動を推進し、互いに違いを認め合い、尊重し支え合う集団作りに努める。</p>	
<p>指標</p> <p>校内生徒アンケートにおいて「自らのルーツを知り、ルーツを大切にすることを学ぶことができた」の項目で肯定的に回答する割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>人格形成の基礎を培うため、合唱コンクールなど文化的行事の取り組みの実施や、芸術や文化に触れる取り組みにより幅広い感性を育む情操教育を推進する。</p>	
<p>指標</p> <p>校内生徒アンケートの「合唱コンクールや展示発表をすることで表現力がついたり、感動したりすることができましたか。」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

年度目標	進捗状況
<p><b>年度目標【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</li> <li>○ 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</li> <li>○ 年度末の校内調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。(前年度79.7%)</li> <li>○ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を40%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業研究や校内研修において『1.ICT活用』・『2.アクティブラーニング』・『3.めあて・まとめの提示』を行うこと定め、全教員が研究授業を行い、授業改善に努める。</p>	
<p>指標 校内調査における生徒向けアンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目で、肯定的に回答する生徒の割合を、85%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 9年間を見越した教育課程の検討による学びの一貫性を目指すとともに、教員の指導力を高め「わかる授業力」向上を目指す。</p>	
<p>指標 専門職者を講師とする研修会の実施や、相互授業参観週間を設定し、教員相互による授業点検を実施する。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内実力テストに代わる共通到達度確認問題テストを実施し、個別の学力到達度を図り個別の課題を詳細に把握することにより学力全体の底上げを図る。</p>	
<p>指標 中学3年生の自己実現に向けた意欲を高め、生徒アンケート「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑨【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体力・運動能力が高まるよう、体育の授業や学校行事を精選し、安全への配慮を踏まえた指導内容に工夫をし、体力合計点を向上させる。</p>	

指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点における課題を克服するため、男女とも、前年度合計点(男子 42.3 点、女子 46.5 点)より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標	進捗状況
<b>年度目標【学びを支える教育環境の充実】</b> ○ 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を 70%以上にする。 ○ 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。 ○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑩【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学び協働的な学びの実現に向け、学習者端末を積極的に使用する取組を行う。	
指標 アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を 70%以上にする。	
取組内容⑪【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 生徒の機器使用スキルを高め、教職員の負担軽減を図るため、ICT 機器の活用を進める。	
指標 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。	

<p>取組内容⑫【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員の超過勤務時間の減少に努める。</p>	
<p>指標 ゆとりの日を設定し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を前年度以上にする。(前年度 80.6%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	